

TOEI TRANSPORTATION

東京都交通局

経営計画

2019

「東京都交通局経営計画 2019」

令和元年度進捗状況



令和2年7月



すべての「今日」のために。

都営交通

「東京都交通局経営計画 2019」 令和元年度進捗状況

交通局では、平成 31（令和元）年度から令和 3 年度までの 3 か年を計画期間とする「東京都交通局経営計画 2019」を平成 31 年 1 月に策定しました。

東京の都市活動や都民生活を支える公共交通機関として、安全・安心の確保を最優先に、質の高いサービスを提供するとともに、まちづくりとの連携や観光振興、環境負荷の低減などを通じた東京の発展への貢献など、様々な取組を進めてきました。

計画初年度である令和元年度は、契約不調等により、一部の事業で進捗が遅れたものの、計画策定後の状況変化にも対応しながら、掲げた施策の達成に向け着実に取組を進めました。

また、財政収支については、自動車運送事業を除く全ての事業において、目標を達成しました。

令和元年度の主な進捗状況については、以下のとおりです。

令和元年度の主な進捗状況

■安全・安心の確保

- ・地下鉄のホームドア整備について、新宿線では、令和元年 8 月に全駅での運用を開始しました。また、浅草線では、4 駅にホームドアを先行整備するとともに、令和 5 年度までの全ての交通局管理駅への整備完了に向けて、ホームドアの製作等に着手しました。
- ・地下鉄駅構内の防犯カメラについて、重点整備箇所への設置を完了するとともに、地下鉄の車両更新等にあわせて、車内防犯カメラの設置を進めました。
- ・浅草線及び三田線での止水対策工事を完了するなど、地下鉄構造物の長寿命化を進めたほか、高架部の橋脚及び地下部の中柱の耐震補強を実施しました。

■質の高いサービスの提供

- ・日暮里・舎人ライナーの車両を 2 編成増備し、輸送力を増強しました。
- ・臨海地域を中心に、需要動向を踏まえてバス路線の拡充を行うとともに、新たに有明自動車営業所を令和 2 年 3 月に開設しました。
- ・乗換駅等でのエレベーター整備や、トイレのグレードアップ・洋式化改修等を進めたほか、地下鉄車内の無料 Wi-Fi サービスについて、全車両への整備を完了しました。

■東京の発展に貢献

- ・浅草線について、新型車両を 7 編成導入するとともに、街並みにあわせた駅改装に向けて設計を進めるなど、リニューアル・プロジェクトを推進しました。
- ・地下鉄の駅や車両、バス停留所の上屋や標識柱に LED 照明を採用し、省エネルギー化を図るなど、環境負荷の低減に取り組みました。
- ・小さなお子様連れのお客様が安心して気兼ねなく電車を利用できるよう、大江戸線の一部の車両に子育て応援スペースを試験導入しました。

■経営基盤の強化

- ・局資産を有効活用して安定した収入を確保するため、大門庁舎（浜松町）等の利活用に向けた取組を進めるとともに、駅の大規模改良工事にあわせた店舗設置や地下鉄車内の広告用デジタルサイネージの設置拡大を進めるなど、構内営業や広告事業を積極的に展開しました。

1. 安全・安心の確保

安全・安心を最優先し、災害に強く、事故のない都営交通を実現するため、全職員が一丸となって取組を進めました。

◆ 安全対策の強化

(1) 安全管理の持続的向上

- 災害等の異常事態に対する即応力の維持・向上のため、異常時総合訓練、自然災害防止訓練、情報伝達訓練等を引き続き実施しました。
- 都営地下鉄においては、東京メトロとの合同訓練を実施したほか、運転シミュレータを活用した研修を実施しました。
- 都営バスにおいては、更なる安全性の向上のため、車内ミラーの増設や左折時警報装置、ソナーセンサー*1の導入拡大など、車両の装備の改善を図るとともに、教習兼用車*2の導入などにより、個人の運転特性を踏まえた的確な指導を行いました。



異常時総合訓練の様子

*1 音波によってバスの前後にある障害物の接近を検知し、音や表示で運転手に知らせる装置

*2 営業用の車両を研修用にも兼用できるよう補助ブレーキを追加したバス車両

(2) ホーム事故「0」を目指した取組

- 新宿線では、令和元年8月から全駅でのホームドアの運用を開始しました。
- 浅草線では、新橋駅・大門駅・三田駅・泉岳寺駅の4駅にホームドアを先行的に整備するとともに、令和5年度までの全ての当局管理駅への整備完了に向けて、ホームドアの製作等に着手しました。
- お客様が乗降時にホームと車両のすき間に転落することを防止するため、三田線三田駅に可動ステップを1か所試験設置し、転落防止の効果や運行への影響等について検証を開始しました。



新宿線ホームドア

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 新宿線へのホームドア整備				
計画	全駅整備完了 (秋まで)	—	—	
実績	全駅整備完了 (8月)			
〔2〕 浅草線へのホームドア整備				
計画	準備工事	先行4駅整備完了 (東京2020大会まで)	ホームドア製作等	令和5年度までに全ての 交通局管理駅への整備完了
実績	先行4駅整備完了			

◆ 災害対策等の強化

(3) 首都直下地震への備え

- 東日本大震災を踏まえ、施設等の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るため、更なる耐震対策として、高架部の橋脚及び地下部の中柱の補強を順次進めました。
- 震災時等の閉じ込め時においても最寄階に着床するリスタート機能付エレベーターへの更新について、契約不調等により一部の駅で遅れが生じましたが、10駅のエレベーターを更新しました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄の早期運行再開を図るための耐震対策				
計画	順次実施	→	約5割完了	阪神・淡路大震災を踏まえた国の通達に基づく耐震対策は実施済
実績	順次実施			
〔2〕リスタート機能付エレベーターへの更新（地下鉄駅）				
計画	12駅	4駅 (全対象完了)	—	
実績	10駅			

(4) 地下鉄の浸水対策の強化

- 順次公表されている新たな浸水想定区域図を踏まえ、関係する地下鉄駅出入口における止水板の高さの見直しや、止水板から防水扉への変更など、引き続き必要な追加対策の検討を進めました。また、大規模水害時の早期復旧に向け、局内に設置しているプロジェクトチームにおいて、運行に不可欠な重要施設の被害想定を確認し、より実効性の高い対策について検討を進めました。
- 迅速な避難の実現に向けた取組として、台風発生時に荒川下流タイムライン*を適用し、その検証を行うとともに、国や東京都による「首都圏大規模水害からの広域避難検討会」に参加するなど、防災関係機関と連携した取組を進めました。

*災害が発生することを前提として、関係者が災害時に行う防災行動を時系列に沿ってとりまとめた事前防災行動計画

(5) テロ対策の強化

- 地下鉄駅構内の防犯カメラについて、重点整備箇所への設置を完了するとともに、地下鉄の車両更新等にあわせて、車内防犯カメラの設置を進めました。また、映像を解析することで不審物の置き去り等を検知する新技術を活用したカメラについて、導入に向けた手続きを進めました。
- 関係機関と連携し、サイバーセキュリティ対策やテロ対策訓練を実施するなど、更なるテロ対策の強化に努めました。



車両内防犯カメラ

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄における防犯カメラの増設				
計画	重点整備箇所への設置完了	その他の箇所に順次増設	→	
実績	重点整備箇所への整備完了			
〔2〕地下鉄車内への防犯カメラの導入				
計画	順次導入	→	→	
実績	順次導入			

(6) 非常時における電源の確保

- 停電時におけるお客様の円滑な避難に役立てるため、橋梁部のある新宿線について、停電時に次駅までの走行を可能とする電力貯蔵設備を導入しました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄への電力貯蔵設備の導入				
計画	導入	—	—	
実績	導入			

◆ 安定的な輸送を支える基盤整備

(7) 施設等の適切な維持管理と計画的な更新

- 浅草線及び三田線での止水対策工事を完了するなど、地下鉄構造物の長寿命化を進めました。
- 大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設について、令和6年度の竣工に向けて、変電設備の実施設計を進めました。
- 大江戸線の信号保安装置について、運転効率や乗り心地を一層向上できるように、無線式列車制御システム（C B T C）*の導入に向けて、地上設備等の製造契約を締結し、仕様の詳細検討を進めました。

*無線を利用して地上と車上との間で通信を行い、列車の運行と制御を行う信号保安技術



トンネル補修工事の様子

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄構造物の長寿命化				
計画	順次実施 (うち止水対策) 浅草線・三田線完了	→	→	
	実績			
〔2〕大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設				
計画	実施設計	→	工事着手	令和6年度竣工（予定）
実績	実施設計			

◆ 安定的な電力供給を支える基盤整備

(8) 安定的な電力供給を支える基盤整備

- 多摩川第三発電所の大規模更新に向けた詳細調査を行うとともに、今後の経営の方向性について、民間事業者との予備的対話を実施し意見交換を行うなど、検討の深度化を図りました。



多摩川第三発電所

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕発電所施設の大規模更新計画の策定				
計画	(多摩川第三発電所) 大規模更新に向けた 詳細調査	更新計画策定	→	
実績	(多摩川第三発電所) 大規模更新に向けた 詳細調査			

2. 質の高いサービスの提供

お客様が求める質の高いサービスを提供し、快適で利用しやすい都営交通を実現するため、取組を進めました。

◆ 輸送需要への的確な対応

(9) 輸送力の増強とダイヤの見直し

- 三田線について、令和4年度から実施する一部の編成の8両編成化に向けて、ホームドアの更新工事を順次実施するとともに、国が定めた火災対策基準に基づく駅施設の改良工事に向けた準備を進めました。
- 都営バスにおいて、臨海地域を中心に、需要動向を踏まえてバス路線の拡充を行うとともに、新たに有明自動車営業所を令和2年3月に開設しました。
- 日暮里・舎人ライナーにおいて、混雑緩和や利便性の向上を図るため、車両を2編成増備するとともに、混雑時間帯の運転本数を増発するなどのダイヤ改正を行いました。
- 「スムーズBiz」の取組の一環である「時差 Biz」の推進に向けて、都営地下鉄及び日暮里・舎人ライナーにおいて「時差 Biz キャンペーン」を、夏期と冬期の2回実施しました。



日暮里・舎人ライナー増備車両

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 新宿線車両の10両編成化				
計画	—	—	4編成	全編成10両化 (令和4年度)
実績	—			
〔2〕 臨海地域における新たな営業所の整備				
計画	整備完了・開設	—	—	
実績	整備完了・開設			
〔3〕 日暮里・舎人ライナーの車両増備				
計画	2編成増備	—	—	
実績	2編成増備			

◆ 便利で快適な移動空間の創出

(10) 駅空間の質的向上

- より快適な駅空間を創出し、お客様の利便性を向上するため、勝どき駅や日比谷駅、神保町駅等で大規模改良工事を進めました。
- 乗換駅等でのエレベーター整備について、大江戸線両国駅など2駅で増設を完了しました。
- 視覚に障害をお持ちのお客様が安心して駅をご利用いただけるよう、ホームの階段をお知らせする音声案内装置について、全対象駅への整備を完了しました。
- 駅トイレについて、出入口の段差解消、ベビーカー・ベビーシートの増設、パウダーコーナーの設置などグレードアップを行うとともに、洋式トイレへの改修を進めました。
- 浅草線の駅のベンチについて、関係機関との調整により遅れが生じたものの、大門駅など3駅のリニューアルを行いました。



九段下駅エレベーター



神保町駅トイレ

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕乗換駅等でのエレベーター整備				
計画	順次増設	→	→	計9駅完了
実績	2駅完了			
〔2〕ホーム階段の音声案内装置の整備				
計画	整備完了	—	—	
実績	整備完了			
〔3〕トイレの改修				
計画	(洋式化) 順次整備	約9割	整備完了	大規模完了予定駅を除く
	(温水洗浄便座) 順次整備	→	→	計64か所完了
	(グレードアップ) 順次整備	→	→	計19か所完了
実績	(洋式化) 9か所完了			
	(温水洗浄便座) 21か所完了			
	(グレードアップ) 6か所完了			
〔4〕ベンチのリニューアル				
計画	浅草線	三田線	新宿線	
実績	浅草線3駅			

(11) 人にやさしい地下鉄車両の導入

- 浅草線や大江戸線の車両更新に際し、各車両へのフリースペースの設置、低い吊り手・荷棚の採用、優先席への縦手すりの追加、多言語対応の車内液晶モニターによる分かりやすい案内表示など、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた「人にやさしい車両」を導入しました。



大江戸線車両（左：外観 右：車内）

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄の車両更新				
計画	(浅草線) 7編成	7編成	5編成 (全27編成更新完了)	
	(三田線) —	—	9編成	
	(新宿線) —	—	4編成	(9) - [1] の再掲
	(大江戸線) 4編成	4編成	4編成	
実績	(浅草線) 7編成			
	(三田線) —			
	(新宿線) —			
	(大江戸線) 4編成			

(12) バス停留所の快適性向上

- バス停留所の上屋について、関係機関との協議等により遅れが生じたものの、設置を拡大するとともに、バスの到着をお知らせするバス接近表示装置やベンチの整備を進め、待ち時間における負担感の軽減を図りました。
- バスの発着場所や運行情報が容易に分かるよう、バスターミナル3か所にデジタルサイネージを設置しました。



案内用デジタルサイネージ
(渋谷駅)

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
バス停留所上屋・ベンチの整備				
計画	(上屋の整備) 新設：50棟 建替：22棟	新設：50棟 建替：20棟	新設：45棟 建替：20棟	上記バス停留所上屋の内数 新設・更新を含む
	(うち広告付上屋) 20棟	20棟	20棟	
	(ベンチの整備) 77基	75基	66基	
実績 ※	(上屋の整備) 新設：29棟 建替：35棟			
	(うち広告付上屋) 56棟			
	(ベンチの整備) 77基			
バスターミナル等への案内用デジタルサイネージの設置				
計画	2か所	2か所	2か所	
実績	3か所			

※実績については、PPP（パブリックプライベートパートナーシップ）事業者施工分を含む。

◆ 新たなバスモデルの展開

(13) 新たなバスモデルの展開

- 車内後方の通路段差を解消したフルフラットバスについて、お客様の声等を踏まえながら検証・改良を行いました。
- 外国人のお客様にも都営バスをわかりやすくご利用いただけるよう、現在漢字と数字とで表記している系統名について、国のガイドラインを踏まえ、系統番号の漢字部分にアルファベットを併記した系統ナンバリングを2系統で試行実施しました。



アルファベットを併記した系統ナンバリング

◆ 公共交通ネットワークの利便性向上

(14) 公共交通ネットワークの利便性向上

- 九段下駅の更なる利便性向上を図るため、新宿線と東京メトロ東西線・半蔵門線の3線共通改札口の設置や乗換エレベーターを整備するとともに、改札通過情報メール配信サービス「まもレール」を導入するなど、東京メトロと連携し、東京の地下鉄サービスの一体化に向けた取組を進めました。



九段下駅3線共通改札口

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕九段下駅の大規模改良				
計画	3線共通改札口設置	—	—	
実績	3線共通改札口設置			
〔2〕改札通過情報メール配信サービス				
計画	検討・導入	—	—	
実績	検討・導入 (令和2年4月1日サービス開始)			

◆ 旅行者にも利用しやすい環境の整備

(15) 案内サインや情報提供の充実

- 都営地下鉄では、東京2020大会関連重点駅の案内サインを順次改修するとともに、全駅へのLCD（液晶画面）案内表示器の設置を完了しました。
- 都営バス車両の行先表示について、乗りたいバスを色でもわかるようにするため、フルカラー行先表示器を車両更新にあわせて順次導入しました。
- お客様が都営交通をより便利で快適に利用できるよう、運行情報をはじめ、列車走行位置やイベント情報などを提供する都営交通公式アプリを令和2年3月に導入しました。



(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄駅の案内サインの改修				
計画	東京2020大会関連重点駅完了	順次改修	→	令和4年度までに全駅完了
実績	東京2020大会関連重点駅完了 ※大規模改良駅を除く			
〔2〕都営交通公式アプリの導入				
計画	開発・運用開始	順次機能向上	→	
実績	開発・運用開始			

(16) 旅行者の視点に立ったサービスの充実

- 路線図などから検索可能で操作性が高く、8言語に対応した旅行者向け券売機について、東京 2020 大会最寄駅に追加導入するとともに、「Tokyo Subway Ticket」を QR コードにより発券するサービスを開始しました。
- 更なる利便性の向上を図るため、一部の企画乗車券について、IC カード「PASMO」への搭載が可能になるとともに、券売機で購入可能な企画乗車券について、購入代金支払い時のクレジットカードの利用を開始しました。
- 地下鉄車内での無料 Wi-Fi サービスについて、全車両への整備を完了しました。
- 駅構内に、海外で発行したキャッシュカードやクレジットカードでも利用できる A T M や旅行者用の大型コインロッカーを増設するとともに、新たに自動外貨両替機を設置しました。



旅行者向け券売機

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕次世代券売機（旅行者向け券売機）の導入				
計画	14台	—	—	
実績	14台			
〔2〕地下鉄車内の無料 Wi-Fi 環境の整備				
計画	全車両整備完了	—	—	
実績	全車両整備完了			

(17) おもてなしの心によるサービスの提供

- 外国人のお客様へ円滑な案内ができるよう、英会話研修等を実施し、職員の対応力の向上を図りました。
- 旅行者向けの企画乗車券の販売や観光情報の提供等を行うツーリストインフォメーションセンターについて、契約不調により遅れが生じましたが、整備を進めており、設置予定を令和 2 年度としました。
- 高齢者や障害をお持ちのお客様などが都営地下鉄等を安心してご利用いただけるよう、全ての駅係員に加え、乗務員についても「サービス介助士」の資格取得を進めました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕コンシェルジュ（駅案内係）の配置拡大				
計画	—	1 駅拡大 (累計 30 駅)	—	
実績	—			
〔2〕ツーリストインフォメーションセンターの設置				
計画	2 か所設置	—	—	
実績	—			

(18) 海外を含めた多角的な広報の展開

- 外国人の視点で都営交通沿線の名所を紹介するガイドマップの作成や観光モデルルートの発信を行うなど、SNSも活用しながら観光情報を充実させるとともに、交通局のホームページにフランス語とスペイン語のページを追加するなど、情報発信の更なる多言語化を図りました。
- 都営交通の利便性や沿線の魅力等を発信するため、海外で開催される旅行博覧会に参加・出展するとともに、都営交通のPR広告を海外発行の旅行ガイドブック等に掲載しました。

◆ サービス品質の持続的向上

(19) お客様の視点に立ったサービスの提供

- 職員の接客や施設の現状など、各サービスのレベルを調査・評価する「都営交通モニター制度」や、外国人から見た都営交通の利便性やサービスについての認知度等を調査する「外国人モニター制度」を活用し、サービス向上策を検討、実施しました。
- 各職場においてサービス推進活動に取り組むとともに、優れた取組を局全体で共有するため、「交通局サービス推進発表会」を開催し、組織全体のサービスレベル向上を図りました。

(20) 公共交通機関を気持ち良くご利用いただくための取組

- 駅や車内におけるマナー啓発や心のバリアフリー推進のため、ポスターや動画を作成し、都営地下鉄や都営バスの車内などでPRを行いました。



マナーポスター

3. 東京の発展への貢献

首都東京が抱える様々な課題に果敢に挑戦し、東京の発展に貢献する都営交通を実現するため、取組を進めました。

◆ まちづくりとの連携

(21) 浅草線のリニューアル・プロジェクト

- 令和2年に開業60周年を迎える浅草線について、新型車両を7編成導入するとともに、各駅の街並みに合わせた駅改装に向けて設計を進めるなど、リニューアル・プロジェクトを推進しました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕車両更新				
計画	7編成	7編成	5編成 (全27編成完了)	(11) - 〔1〕の再掲
実績	7編成			
〔2〕駅改装				
計画	順次実施	→	→	
実績	順次実施			

(22) まちづくりと一体となった泉岳寺駅の大規模改良

- 品川駅周辺のまちづくりに合わせ、市街地再開発事業と一体となって実施する泉岳寺駅の大規模改良について、引き続き土木工事等を進めました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕泉岳寺駅の大規模改良				
計画	順次工事実施	→	→	拡幅ホームの供用開始は 令和6年度(予定)
実績	順次工事実施			

◆ 観光振興及び文化振興への貢献

(23) 観光施策との連携強化

- (公財)東京観光財団が発行する「東京トラベルガイド」において、沿線の観光スポットなどを紹介したモデルルート広告を出稿するなど、都営交通沿線の魅力を広くPRしました。
- 関係事業者と連携して、訪日外国人旅行者向けICカード乗車券「PASMO PASSPORT」などの新たな企画乗車券を発売しました。

(24) 文化施策との連携強化

- 東京を中心とした美術館や博物館・動物園などの入場券・割引券が綴られたチケットブック「東京・ミュージアムぐるっとパス」と企画乗車券を組み合わせた商品として、「都営 de ぐるっとパス 2019」「Tokyo Subway&ぐるっとパス」を発売し、旅行者の都内文化施設への来場促進を図りました。
- 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムである「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World」への協力として、上野御徒町駅構内において上演オペラのメロディを放送するなど、他の鉄道事業者等と連携して、広報活動に取り組みました。
- 局が所蔵する歴史的資料について、交通局ホームページに「東京都交通局デジタルアーカイブ」を開設し、順次歴史を感じる写真等を公開するとともに、交通局主催イベントでの展示や、自治体・民間主催のイベントへの貸与により、広く活用を図りました。



歴史的資料の展示（都営フェスタ）

◆ 持続可能な社会の実現への貢献

(25) 水素社会の実現への貢献

- 水素社会の実現に貢献するため、燃料電池バスの導入を進め、計 38 両に拡大しました。
- 東京都環境局が主催する水素エネルギーの PR イベントの一環として、燃料電池バスの試乗に協力するとともに、都市合同で実施した総合防災訓練において、燃料電池バスの外部給電機能を紹介しました。



燃料電池バス

(26) 省エネの推進と再生可能エネルギーの拡大

- CO₂排出量の削減に向けて、都営地下鉄では、駅等の照明器具の更新にあわせて LED 照明を設置しました。また、バス停留所においては、関係機関との調整により遅れが生じたものの、LED 照明の設置を拡大しました。
- 「省エネ・再エネ東京仕様」に基づき、局施設の整備にあわせ、太陽光パネルを設置するとともに 照明設備等への電源供給に活用するため、バス停留所の上屋にソーラーパネルを設置しました。
- 白丸調整池ダム監視所の移設にあわせた再生可能エネルギー PR 施設の設置について、監視所移設工事の実施中に追加作業が必要となったため、移設工事の完了予定を令和 2 年度としました。



太陽光パネル設置（有明自動車営業所）

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕バス停留所上屋へのLED照明の設置拡大				
計画	75棟	75棟	70棟	
実績	74棟			
〔2〕再生可能エネルギーPR施設の設置				
計画	監視所移設	PR施設開設	—	
実績	—			

(27) 公共交通の利用促進等による環境負荷の低減

- 都営交通の環境負荷低減に対する取組や公共交通の環境優位性について、駅ポスターや地下鉄車内液晶モニターの活用等を通じて、積極的にPRを行いました。
- 都営バスの更新車両（ディーゼル車）については、最新の排出ガス規制に適合したノンステップバス車両とし、窒素酸化物・粒子状物質の削減に貢献しました。
- 都営交通ポイントサービス（Tokopo）を活用し、環境施策「エコボーナスキャンペーン」を実施するなど、行政施策と連携した取組を行いました。

(28) うるおいのある都市空間の創出への貢献

- 東京さくらトラム（都電荒川線）の軌道内緑化について、生育条件や維持管理方法、環境への効果等をより具体的に検討していくため、引き続き官学連携による実証実験に取り組みました。
- 暑さ対策として、バス停留所上屋にミスト装置を試験設置しました。

◆ 沿線地域の発展に貢献

(29) 沿線地域との連携

- 東京さくらトラム（都電荒川線）の更なる利用者の誘致や沿線地域の活性化を図るため、沿線4区等と連携し、スタンプラリーやイベントを実施するなど、積極的なPRを行いました。
- 日暮里・舎人ライナーの魅力向上と沿線地域の活性化に向けて、地元区や沿線施設と連携したイベント等を実施しました。
- 都営バス営業所において、地元の警察署と連携して、高齢者の方や小学生等を対象とした交通安全教室を実施し、交通安全意識の啓発を図りました。
- 都の青少年健全育成対策の取組と連携して、地下鉄駅・都営バス営業所・荒川電車営業所において、中学生の職場体験に協力しました。



さくらサク号

◆ 福祉施策への貢献

(30) 福祉インフラ整備への協力

- 所有地に関する問合せや活用の提案等を受け付ける「とうきょう保育ほうれんそう」に局資産の情報を提供するなど、福祉インフラ整備事業に協力しました。また、認可保育所等施設の整備を条件として事業者へ貸付けを開始した都営バス大塚支所跡地について、事業者の施設整備が計画的に進むよう、地元区等との調整を進めました。

(31) 子供の育成を支え見守る取組

- 小さなお子様連れのお客様が安心して気兼ねなく電車を利用できるよう、大江戸線の一部の車両に子育て応援スペースを試験導入しました。
- 他事業者と連携して、予め登録した IC カードで駅の自動改札機を通過した際、保護者等に通過情報をメールで配信するサービス「まもレール」を導入しました。(令和2年4月1日サービス開始)



子育て応援スペース

(32) ヘルプマークの普及への協力

- 都営地下鉄各駅や都営バス営業所などでヘルプマークを配布するとともに、車内やホームドア、エレベーターなどにステッカーを掲出するなどヘルプマークの普及に協力しました。

◆ 都政情報等の発信への協力

(33) 都政情報等の発信への協力

- 地下鉄及びバス車内の液晶モニター等を活用し、ラグビーワールドカップ 2019™日本大会の競技結果速報を配信するとともに、東京 2020 大会の関連情報、都政情報、他の自治体の観光案内等の情報発信に協力しました。
- 車両更新等にあわせ、地下鉄車内液晶モニターを 12 編成に設置しました。バス車内液晶モニターについては、現行機器メーカーの保守サポート終了に伴う対応が必要となったため、令和元年度に予定していた 200 基を含めた 500 基を、令和 2 年度に設置することとしました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄車内液晶モニターの設置拡大				
計画	11 編成設置	11 編成設置	22 編成設置	
実績	12 編成設置			
〔2〕バス車内液晶モニターの設置拡大				
計画	200 基設置	300 基設置	—	
実績	—			

4. 経営基盤の強化

事業環境の変化にも迅速かつ的確に対応するとともに、中長期的に安定した事業運営を行っていくため、経営基盤の強化に向けて取組を進めました。

◆ 関連事業の推進

(34) 資産の利活用

- 大門庁舎を事業区域に含む浜松町二丁目地区市街地再開発事業について、局資産を最大限有効活用できる内容となるよう再開発組合と協議を進め、権利変換計画に同意しました。再開発組合では各地権者が同意した権利変換計画について認可を受けるとともに、既存建物の解体工事に着手しました。
- 都営バス新宿支所を事業区域に含む西新宿三丁目西地区再開発事業について、再開発準備組合が再開発組合設立認可に向け策定する事業計画等に関して協議を進めました。
- 構内営業について、日比谷駅及び神保町駅の大規模改良工事にあわせ、新たに店舗を設置したほか、一部の地下鉄駅構内において傘のシェアリングサービスのレンタルスポットを設置するなど、より収益性・利便性の高い店舗やサービスの展開を進めました。



神保町駅ナカに新たにオープンした店舗

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 大門庁舎（浜松町）の利活用				
計画	権利変換計画認可 工事着手	→	→	令和7年度以降 利活用開始（予定）
実績	権利変換計画認可 工事着手			
〔2〕 都営バス新宿支所の利活用				
計画	—	再開発組合設立認可	権利変換計画認可	令和10年度以降 利活用開始（予定）
実績	—			

(35) 広告事業の積極的な展開

- 車両更新にあわせ地下鉄車内の広告用デジタルサイネージの設置を拡大するとともに、車内広告と駅広告の複数媒体を組み合わせた販売促進キャンペーンを実施するなど、広告事業を積極的に展開しました。
- 広告付バス停留所上屋について、民間事業者を活用した整備手法も取り入れながら、設置を拡大しました。

◆ 安定的な人材の確保と育成

(36) 運輸系職員の人材確保

- 事業を支える有為な人材の安定的な確保のため、高等学校や専門学校への働きかけを強化しました。
- バス乗務員の確保を図るため、転職イベントへ出展し、職業としての魅力のPRを行うとともに、大型二種免許取得を支援する養成型選考について、採用人数の拡大や免許取得費用助成の拡充を行いました。

(37) プロフェッショナル職員の育成と技術の継承

- 新宿線の運転シミュレータについて、ホームドアの設置等を踏まえた改修を行いました。
- 保守職員の技術力の維持・向上を図るため、研修所における研修や、外部の技術専門機関等を活用した専門研修を実施するとともに、電気や保線等の保守職場において、模擬実習設備を活用した実践的な研修・訓練を行いました。
- バスについては、新規採用者向けに、運転技量に応じたきめ細かな養成研修を実施するとともに、現場での指導・教育に活用するため、教習兼用車を営業所に導入し、乗務員の指導育成体制を充実しました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
地下鉄運転シミュレータの改修				
計画	新宿線改修	—	—	
実績	新宿線改修			

◆ 全ての職員が活躍できる職場環境づくり

(38) 職員のやる気と能力を引き出す環境づくり

- 人事考課制度を効果的に活用するとともに、職員表彰の実績を共有するなど職員のやる気を引き出す環境づくりに努めました。

(39) コンプライアンスの推進

- 職員一人ひとりが法令等を遵守し、高い規範意識を持ちながら業務を常に見つめ直し、信頼され支持される都営交通を実現できるよう、コンプライアンス研修の実施や、年2回のコンプライアンス推進運動において、自己点検や職場内ディスカッションを実施するなど、コンプライアンス意識の浸透・定着に努めました。

(40) ライフ・ワーク・バランスの推進

- 育児・介護と仕事の両立支援や超過勤務の縮減に向けた取組を実施するとともに、勤務間インターバル制度の導入のほか、本局全職員及び事業所管理職へのテレワーク用端末の配備など、柔軟な働き方を可能とする環境整備を進め、職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図りました。

(41) 職員の健康管理の推進

- 職員の心身の健康増進のため、相談体制の充実やメンタルヘルス対策の強化を図るとともに、SAS 検診や脳 MRI 健診等を計画的に実施しました。

(42) ダイバーシティの推進

- 女性職員がより一層活躍できるよう、仮泊室の整備を進め職場環境の充実を図るなど、誰もが働きやすい職場環境等の整備を進めました。

◆ 安定的な事業運営を支える執行体制の構築

(43) 組織の見直しと執行体制の強化

- 臨海地域等のまちづくりの進展に伴う輸送需要の増加等に対応するため、執行体制を強化しました。

(44) 不断の業務改善への取組

- チャレンジ提案制度や技術発表会、若手職員のアイデアの積極的な活用等を通じ、自ら業務を改善する組織風土を醸成しました。
- 旅費や勤怠管理などの庶務事務や給与関係事務にかかる業務量の軽減とコスト縮減を図るため、庶務事務の電子化及び給与関係事務の外部委託について、発注にかかる準備を進めました。

(45) 体系的なリスクマネジメントの推進

- 「リスクマネジメント委員会」において事業運営上発生する様々なリスクについての取組計画を策定し、定期的に取り組状況のチェックを行うなど、体系的なリスクマネジメントを推進しました。

(46) グループ経営の推進

- 局と関連団体とがグループ総体として最大の経営効果を発揮できるよう、団体からの研修受入など人材交流を進めるとともに、経営計画や人員計画等について事業の方向性を共有するなど、連携の強化を図りました。

5. 東京 2020 大会の成功に向けた取組

大会開催時に、安全で安定的な輸送と快適で提供しやすいサービスを提供するため、関係機関と連携しながら取組を進めました。

◆ 東京 2020 大会に向けた都営地下鉄の主な取組

■ ホーム事故「0」を目指した取組

新宿線では、令和元年8月から全駅でのホームドアの運用を開始するとともに、浅草線では、新橋駅・大門駅・三田駅・泉岳寺駅の4駅にホームドアを先行的に整備しました。また、テロ対策への対応として、競技会場最寄駅等の重点整備駅への防犯カメラ整備を完了するとともに、AI等の新技術を活用し、カメラ映像の解析により不審物の置き去り等を検知するシステムの導入に向けて、準備を進めました。

→2, 3ページ掲

■ 誰もが利用しやすい環境の整備

競技会場最寄駅等でエレベーター整備を進めました。また、旅行者向け券売機を会場最寄駅等に増設するとともに、地下鉄車内での無料Wi-Fiサービスについて、全車両への整備を完了しました。

→7, 11ページ掲

■ 地下鉄の輸送対応

競技日程に応じた輸送需要を踏まえ、終電の延長や列車の増発を実施するため、組織委員会や他の鉄道事業者と協議・調整を行うとともに、大会開催時における輸送障害等を想定した対応訓練を実施し、現場への出動体制や復旧作業フロー等の確認を行いました。

■ 気運醸成に向けた取組

車両ステッカーやホームドアステッカーの掲示のほか、大江戸線において、東京2020マスコットのメディアライナー（広告貸切電車）やラッピング電車の運行等を実施しました。

◆ 東京 2020 大会に向けた都営バスの主な取組

■ 水素社会の実現への貢献

水素社会の実現に貢献するため、燃料電池バスの導入を進め、計38両に拡大しました。→14ページ掲

■ 大会期間中の特別輸送

駅から離れた会場へのシャトルバス運行について、テストイベントを通じた検証等を行うとともに、通常路線の運行への対応として、大会開催時の交通規制等に対応するための運行経路やダイヤ変更について、調整・検討を進めました。

■ 気運醸成に向けた取組

バス車内液晶モニターを活用したPR動画放映や、東京2020マスコットのラッピングバスの運行を実施しました。